

分野	農業水利改良			事業番号	49	事業名	県営かんがい排水(地域用水環境整備)			
市町村名	長野市		ふりがな 箇所名	まじま 里島		事業年度 (完了年度は見込み)	H25年度～		H26年度	
事業概要	区分	事業内容			事業費(千円)		財源内訳(千円)			
	全体	小水力発電施設 1箇所			73,000		国庫	その他	県債	一般財源
要	H24年度 補正	測量設計 1式			16,000		8,000	4,000	0	40,000
	H25年度									
箇所 評価	区分	評価項目・指標等			評価				ランク	評点
	必要性 (25)	用水量	■ 1.0m ³ /s以上 □ 0.1m ³ /s以上1.0m ³ /s未満 □ 0.1m ³ /s未満			A	10			
		整備する施設の年間利用可能日数	■ 250日以上 □ 100日以上250日未満 □ 100日未満							
		地域用水機能	□ 3項目以上向上 □ 2項目向上 ■ 1項目向上							
		小計						21		
	重要性 (20)	農業水利施設整備との一体性	■ 一体的に整備 □ 単独整備			B	10			
		設計上の環境配慮項目	□ 2項目以上配慮 □ 1項目配慮 ■ 配慮項目なし							
		小計						13		
	効率性 (15)	費用対効果(B/C)	■ B/C1.2以上 □ B/C1.1以上1.2未満 □ B/C1.0以上1.1未満			B	5			
		早期発現度(効果発現まで)	■ 3年以内 □ 4年以上6年未満 □ 6年以上							
		水利権の取得状況	□ 取得済み □ 取得見込み ■ 新規取水等で要調整							
		小計						11		
	緊急性 (20)	農業水利施設の安全性向上	□ 安全性が向上する ■ 安全性が向上する可能性がある □ 安全性は向上しない			A	7			
		農業水利施設の維持管理費節減	■ 20%以上 □ 5%以上20%未満 □ 5%未満							
		小計						17		
計画 熟度 (20)	地域からの要望	■ 地域住民の内発的な活動が強い □ 市町村からの要望がある □ 特に要望ない			A	6				
	事業情報の共有	□ 関係者以外に広く周知 ■ 関係者を中心に周知 □ 特に周知してない								
	住民参加の状況	■ 住民が計画策定に直接参加 □ 住民や市町村の意見を計画策定に反映 □ 住民意見は反映していない								
	小計						17			
費用対効果(B/C)		1.2		評価の合計				A	79	
事業 周知 環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	善光寺用水は一級河川裾花川を水源とし、善光寺平と称される地域の水田地帯250haを潤している農業用水である。名前の由来でもある善光寺とその門前町を中心に市街地・商業地域が発展し、その下流域に広がる水田地帯に灌漑するという地域特性から、市街地内を流れる幹線水路は、豪雨時の都市雨水の流入による溢水被害や生活排水等の流入による水質汚濁等、農業用水の管理の枠を超えた負担がのしかかり、管理主体である土地改良区は水路管理に多大な労力を要している。								
	地域からの要望経緯	水路管理主体である善光寺平土地改良区より、水路管理の軽減を図るため、水門等の集中管理による自動化と、その電力として水路の流水を利用した小水力発電の検討について要望があり、平成21年度に小水力発電工事等技術強化対策事業を導入し概略検討を行った。平成24年度は当該土地改良区が事業主体となり小水力等農村地域資源利活用促進事業を活用して基本設計と水利権協議を進め、平成25年度の事業着手に向けて事業計画を策定している。								
	事業説明等の経緯	土地改良区四役会(H23.12)、理事会及び総代会(ともにH24.2)において事業概要を説明し了解が得られている。今後、24年度四役会・理事会・総代会にて事業計画を説明・承認された後、受益者への周知を行う予定。								
	環境・景観への配慮項目	既設水利施設の改良であり、事業範囲は小規模であるため、生態系等への大きな影響は想定されない。ただし、工事に伴う水質汚濁、騒音、振動等による周辺環境への影響を軽減させながら事業を推進する必要がある。								
	他事業・プロジェクトとの関連	県営かんがい排水事業(電動ゲート及び集中制御システム)								
	特記事項	土地改良区(受益者)が事業主体となりソフト事業を導入して基本設計及び計画策定を実施。								
地域の合意形成	□ 全員賛成		■ 概ね賛成		□ 過半数賛成		□ 動向不明			
部意見	自然エネルギーの活用及び施設の維持管理費軽減に向けた新たな取組として、必要性、緊急性が高い。				行政改革課意見		必要性、緊急性が認められる。			